

学校の教育目標	自立・貢献・生き抜く力
特別活動の目標	・生徒が自ら考え行動できる能力を実践を通して養う。・集団の一員としての自覚を持ち、集団に積極的に参加・協力する態度を養う。・活動を通して自己実現を図る場とする。 ・生徒のプレゼンテーションスキルを向上させ、発信力・コミュニケーション能力・自己表現力を育成する。
目指す生徒像	・確かな学力を身につけ進路を切り開く生徒 ・豊かなこころ・人間性を磨く生徒 ・健康な体づくりに積極的に取り組む生徒
特別活動の重点目標	望ましい人間関係をつくり、自主的・自律的な態度を育成するために、学校行事・生徒会活動・学級活動などへ積極的に参加させる。・集団の一員としての自覚を高め、規律を守り、協力する態度を育成するために、日直活動、学校地域花壇整備活動などのボランティア活動を充実させる。・オリ・バラ教育や「学校2020レガシー」の推進に努める。

	学級活動	生徒会活動	学校行事
目標	・中学生としての自覚を持ち、自ら行動する態度を養う。 ・集団生活の中で場に応じて適切な行動をとる能力を養う。 ・人間としての在り方について自覚を深める。 ・プレゼンテーションの活動を行い、発信力・コミュニケーション能力・自己表現力を養う。	・人間関係を深め、積極的に集団に参加する態度を養う。 ・学校行事の中心として積極的に集団に働きかける態度を養う。 ・集団生活の中で自己を見つめ、正しく生かす能力を養う。	・学校生活に秩序と変化を持ち、集団への所属感を深める。 ・学校行事を通して、よりよい人間関係を深める。 ・厳粛に儀式的行事に臨む態度を養う。
指導の方針	・学級や学校の生活の充実と向上を図る。 ・個人及び社会の一員としての在り方を探究し、健康や安全の保持、増進を育成する。 ・学校生活を充実させ、将来の生き方や進路の適切な選択ができるように育成する。	・学校生活の充実や改善向上を図る。 ・活動を通した自主的な態度や実行力の育成。	・学校生活の節目にふさわしい行事を行うことにより、日常生活の成果を総合的に発展させ、学校生活に秩序と変化を与え、集団への所属感を深め、学校生活の充実と発展を目指す。 ・行事に参加することにより、集団の一委員としての自覚を持たせる。 ・感動的な体験を通して豊かな人間性を養う。
主な指導内容	(1)学級や学校の生活づくり (学級や学校生活における諸問題の解決。学級の組織づくり、仕事の分担。) (2)適応と成長及び健康安全 (健康で安全な生活態度、食育の観点をふまえた望ましい食育感。自己の理解。不安や悩みの解消。望ましい人間関係の確立。) (3)学業と進路 (進路、適正の吟味。情報の理解と活用。将来の生活設計。進路選択に関する活動。)	(1)生徒会の計画や運営 生徒総会、生徒会役員会、生徒会役員選挙、生徒会新聞の発行など (2)異年齢集団による交流 新入生歓迎会、新入生体験入学、生徒会ボランティアなど (3)生徒の諸活動についての連絡調整 各種委員会による活動 (4)学校行事への協力 運動会、学芸発表会など (5)ボランティア活動などの社会参加 生徒会ボランティア・エコキャップ運動など	(1)儀式的行事 入学式、卒業式、始業式、終業式、修了式など (2)文化的行事 学習成果物発表会、合唱コンクールなど (3)健康安全、体育的行事 健康診断、セーフティ教室、避難訓練、運動会、薬物乱用防止教室など (4)旅行・集団宿泊行事 宿泊学習(1学年)、移動教室(2学年)、修学旅行(3学年)、など (5)勤労生産・奉仕的行事 職場体験学習、大掃除など
他の教育活動との関連	各教科・読書科 学級活動における話し合い活動、言語などによる表現や発表などが重要である。また、活動の企画・立案を行ったり、調査を行ったりすることもある。こうした活動の基礎となる能力を、国語科や社会科をはじめ各教科の学習を通して培う。学級活動における自発的な実践活動によって各教科で培われる能力が発展的に一層高められたり、深められたりする。	生徒会活動における話し合いや言語などによる表現や発表などが重要である。こうした活動の基礎となる能力を、国語科や社会科をはじめ各教科の学習を通して養う。	学習成果物発表会については、国語科、社会科などの学習と関連を図る。また、運動会については、保健体育の学習成果の発表としての視点を明確にする。
	特別の教科 道徳 自分勝手な行動をとらずに節度ある生活をしようとする態度。自己の役割や責任を果たして生活しようとする態度。よりよい人間関係を築こうとする態度。集団や社会の一員としてみんなのために進んで働こうとする態度。	生徒がよりよい生活を築くために、諸問題を見だし、これを自主的に取り上げ、協力して解決していく自発的、自治的な生徒会活動を通して、望ましい人間関係の形成や、よりよい生活づくりに参画する態度などにかかわる道徳性を身に付ける。	いずれの行事についても道徳性を養うことを重視するが、特に次の行事については重点的に扱う。 ・薬物乱用防止教室、セーフティ教室：生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する。 ・儀式的行事：日本人としての自覚をもつて国を愛し、優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献する。 ・合唱コンクール：学校の一員としての自覚を持ち、教師や学校の人々に敬愛の念を深め、協力する。
総合的な学習の時間	学級活動で育成する集団活動や社会性と、総合的な学習で育成する問題解決の資質や能力を相互に役立たせるようにする。オリ・バラ教育や「学校2020レガシー」において、異文化理解を深めさせ、共生社会の実現ができる生徒の育成を図る。	生徒会による諸活動を実践することを通して、自分とのかかわりを視点とした問題発見能力、課題解決能力などを育成するとともに、これらを総合的な学習時間の諸活動に役立てるようにする。	総合的な学習の時間の趣旨を踏まえ、社会とのかかわりを考える学習活動として行われる職場体験活動と地域美化活動を勤労生産・奉仕的行事の実施に替える。また、環境や自然を課題とした問題の解決や探究活動として行われる自然体験活動を旅行・集団宿泊的行事の実施に替える。いずれも学校行事の趣旨である学校集団や学校生活への所属感を深め、望ましい人間関係の形成や公共の精神などを養う活動であることを配慮する。
家庭や地域との連携	生徒は、学級や学校の一員として学校生活を送るとともに、家庭や地域の一員として生活しているため、学級活動の指導においては家庭や地域の人々との連携が、協力が必要となってくる。よって、家庭や地域の人々との連携・協力を工夫する。地域人材の活用を図り、関係諸機関などの専門家などから話を聞くなどの活動を工夫していく。	必要に応じて、校内の活動だけでなく、他校との相互交流を図ったり、地域社会との連携を深めたりするなど、校外での活動への広がりを図るようするために、家庭や地域との連携を深め、その教育力の活用を図ったり、地域の自然や文化・伝統を生かしたり、社会教育施設などを活用した教育活動を工夫していく。	家庭や地域の人々との連携を深め、その教育力の活用を図ったり、地域の自然や文化、伝統を生かしたり、社会教育施設などを活用したりする活動が展開できるよう工夫する。
備考	週の時間割内に位置付ける。全学年月曜1校時、又は、金曜6校時。年間35単位時間。	生徒総会(5月) 生徒会役員選挙(9月) 専門委員会月1回	年間計画の中に位置付ける。